



① かんがえる
 ② がんばる
 ③ やさしく
 ④ きたえる

時津町立鳴鼓小学校
学校だより R6年度第17号

令和7年3月21日
文責：校長 今井大輔

第43回卒業証書授与式

3月18日（火）に卒業式を行いました。卒業生62名が鳴鼓小を巣立っていきました。43回目を数え、累計で2507名が卒業しています。式前日の朝は雪が降り、当日の早朝には地震もあった上に、かなりの冷え込みでした。しかし、温かさのある感動的な式となりました。今回の校長式辞を部分的ですが紹介します。

《前半略》

皆さんが入学した年は、平成から令和へと時代が変わり、ラグビーワールドカップで「ONE TEAM」という言葉が流行しました。しかし、その一方で、新型コロナウイルス感染症が流行し始め、皆さんの学校生活は、突然の休校や、制限された生活から始まるという、困難なものでもありました。

あれから6年。皆さんは、ICT端末を使った学習や、アフターコロナの学校生活を通して、様々なことを経験し、大きく成長しました。特に、最高学年となったこの1年は、皆さんの主体性と行動力が輝いた、素晴らしい1年でした。

皆さんの成長を語る上で、2つの忘れられない場面があります。

1つ目は、授業中の皆さんの「主体的な学び」です。4年生の国語の授業で、皆さんと一緒に「花いろいろ」の詩を学習したことを覚えていますか？5年生の時に算数や体育でも、一緒に学習しましたね。皆さんは、自分たちで課題を見つけ、考え、話し合い、解決していく力を身につけました。目を輝かせ、夢中になって学ぶ皆さんの姿は、まさに学びの主人公でした。

2つ目は、修学旅行での「考えて行動する姿」です。キツザニア福岡で、皆さんは、様々な職業を体験しました。一人一人が自分で考えて職業を選び、積極的に生き生きと働く様子を見て、嬉しいだけでなく、感動すら覚えました。可愛らしいユニフォーム姿の皆さんを写した写真は、気が付くと200枚を超えてしまっていました。キツザニアでの経験は、皆さんの未来を切り拓く、大きな糧となるでしょう。

《途中略》



この経験を活かし、それぞれの道を力強く歩んでいくことを、心から楽しみにしています。

最後に、皆さんに「幸せ」について、話をしたいと思います。私がいつも話している「ウエルビーイング」とは、「心が満たされ、明日も頑張ろうと思える状態」のことです。中学校でも、そんな気持ちで毎日を通してほしいと願っています。

幸せには、3つの種類があります。

1つ目は、「してもらう幸せ」です。友達に優しくしてもらったり、先生に褒めてもらったり、誰かに何かをしてもらった時に感じる、温かい気持ちです。

2つ目は、「できるようになった幸せ」です。苦手だった縄跳びができるようになった時、難しい漢字を覚えられた時、目標を達成した時に感じる、達成感と喜びです。

3つ目は、「してあげる幸せ」です。困っている友達を助けてあげたり、下級生の面倒を見てあげたり、誰かのために行動し、感謝された時に感じる、心の温かさです。

ぜひ、この3つの幸せを、中学校生活でもたくさん経験してください。そして、周りの人たちも幸せにできる人になってください。《後半略》



登校班の班長へ、念願の時計を持たせることができました。

これで、集合時刻の確認はばっちりです。

詳しい内容は、HPをご覧ください。

毎日のように上り下りしている鳴鼓坂。平成16年から10年間、鳴鼓小の体育館でジュニアバレーボールチームを指導していた頃も、この坂は日常の風景だった。

当時は、ただ体育館へ行くことが目的で、車で坂を上る間は、バレーのこと以外、特に何も考えていなかった。しかし、校長として再びこの場所に戻ってからは、通勤の車中はもちろん、交通指導の後に歩いて坂を上る時も、子供たちや先生方の顔が浮かび、様々な思いが巡るようになった。時には、登校に遅れた子供と並んで歩きながら、言葉を交わすこともあった。

そして今年も、鳴鼓坂の桜が美しい花を咲かせる季節がやってきた。以前にもこのコラムで桜の思い出を語らせてもらったが、いつ見ても心を揺さぶられる、特別な風景である。

中でも、娘たちが鳴鼓小に入学する時に、ランドセルを背負わせて記念写真を撮った日のことは、20数年経った今でも鮮明に思い出される。

そんな思い出深い鳴鼓坂を、校長として3年間、毎日通うことができたことを幸せに思う。この鳴鼓小が、子供たちや保護者、地域の皆様にとつて、かけがえのない思い出を育む場所となることを心から願っている。

しんぞく